

明日 への 話題

慌てずに 堂々と



公益財団法人 資本市場研究会
理事長

はやし
林

まさかず
正和

明けましておめでとうございます。本年も「月刊資本市場」を宜しくお願い申し上げます。

さて、ここ数年、昨年だけを振り返っても、多くの人にとって全く予想もしていなかったような事態が、自然現象から国際的な紛争に至るまで幅広い分野で、国内外を問わず発生しました。また、予想し得たものでもその規模が想定を遥かに超える現象もありました。

ところで、このような不測の事態に遭遇した場合、各々の立場立場でどう考え対応したらよいのでしょうか。正解は無いように思われますが、この点について、私の臙げな記憶によれば、明治時代の著名な文豪がこのような趣旨を言われていたように思われます。“想定外の事態に遭遇したら、臨機応変に対応するのが最善。しかしそれには才能が無いと無理。そこで次善の策は、まず落ち着く、慌てるなどということだ”と。当たり前といえばその通りですが、要は軽率な判断、行動は慎み、慌てないで慎重にということと私は理解しています。では、慌てない為に何が必要かという、起こりうる事態とそれへの対応策を幅広く柔軟に考えておくことが何よりも大事だと私は思います。同時に事態発生の際を注意深く観察、見逃さないようにすることに尽きるのではないかと思います。安易な都合の良い楽観はその際排除しなければなりません。そしてこれらは、個人の場合でも、企業・国家社会という大きな場合でも基本は変わらないと思います。

ところで、先般久しぶりで島崎藤村の「夜明け前」を読み直す機会がありました。江戸から明治へという大変革の時代に、人々がそれぞれの立場にあって、想定外の事態が頻発する中、これらをどう受け止め理解し、苦悩しながらどう対応したのか、またすべきだったのか、改めて考えさせられました。そして、以前若いころに得られた感動とはまた違う読後感と、同時に総体としてあの維新を何とか乗り切り、近代国家への礎を築いたことに日本人としての自信と誇りを与えられたように思いました。

私たちを取り巻く諸環境の変化、厳しさはかつて無いほどのように思われます。慌てずに柔軟にそして時に断固と対応し、先人に恥じる事のないよう堂々とこの時代を生き延びて行きたいものです。